

Title	「歴史の意味の開示と成就、歴史の可能性と限界：ニーバー『人間の運命』第2章および第3章の議論を追う」(ラインホルド・ニーバー研究)
Author(s)	鈴木, 幸
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.22-No.2, 2013.1 : 28-28
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=4338
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

ラインホルド・ニーバー研究 「歴史の意味の開示と成就、歴史の可能性と限界 —ニーバー『人間の運命』第2章および第3章の議論を追う—」

2012年10月15日(月)聖学院本部新館2階会議室において、2012年度第3回「ラインホルド・ニーバー」研究会が開催された。今回の研究会も第1回、第2回に続き、日本学術振興会科学研究費補助金の基盤研究(B)「ラインホルド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究」(課題番号: 23320025、研究代表: 高橋義文)の助成で開催され、総合研究所のラインホルド・ニーバー研究会との共催で行われた。聖学院大学大学院教授の高橋義文氏と、聖学院大学総合研究所特任研究員の鈴木幸が、標記の題にて報告した。参加者は22名であった。概要は以下の通りである。

まず『人間の運命』*Human Destiny*の第2章「生と歴史の意味の開示と成就」‘The Disclosure and the Fulfillment of the Meaning of Life and History’については鈴木が、つづけて第3章「歴史の可能性と限界」‘The Possibilities and Limits of History’については高橋氏が、2011年度より始められた翻訳をもとに各章の要約を報告した。第2章では、キリスト教の救済的意義が歴史との関係において語られ、第3章では、キリスト教的倫理規範の基礎となること、つまり無垢・完全・永遠と歴史との関係と、歴史の可能性と限界が述べられていることが報告された。

続いて高橋氏によって報告された第2章および第3章をめぐるコメントの概要、つまりニーバーの認識論・救済論・倫理学の特徴は以下の通りである。まず、ニーバーの議論は、出発点を啓示とする神学として、人間や歴史を鋭く分析している。そして「ひとたび啓示を受け入れるなら、経験は、歴史における倫理問題を解釈する適切な原理となる」(第3章より)という確信が、ニーバー特有の認識論であり、ニーバーの弁証学の方法となっていく。

次に、ニーバーは、メシアニズムを用いて救済論を歴史と関連させた。罪からの救済を求めると、人間の歴史は「メシア待望」となることを、ニー

バーは人間の歴史理解の糸口とした。ニーバーの論述のユニークさは「歴史の神学」を展開した点にみられ、聖書から歴史を排除したブルトマンや、受肉を重んじるバルトと比較することでその違いが分かる。

そしてニーバーの倫理学の特徴は、その基礎を「第二のアダム」において議論を展開した点である。ニーバーは、第二のアダムを歴史の規範と考え、徹底してキリストの啓示そしてアガペーとしての犠牲愛との関係においた。以上、ニーバーの独特な聖書の読み・解釈の世界が展開されていることが報告された。

質疑応答では、ニーバーの弁証法は正と反の上下・横からの対立からなっていること、Nature 本性・罪と Destiny 運命・歴史は最初から分けられていたこと、第二のアダムとは聖書での「最後のアダム」かどうか、そして犠牲愛はイエス・キリストの行為によってあらわれること等が活発に議論された。

(すずき・みゆき 聖学院大学総合研究所特任研究員)



鈴木幸氏(左) 高橋義文教授(右)